

学校経営推進費 評価報告書（最終）

1. 事業計画の概要

学校名	YMCA 学院高等学校
取り組む課題	生徒の自立を支える教育の充実
評価指標	・健康に不安をもつ生徒へのヘルスケアを通じた中途退学率の減少
計画名	『誰もが学びをあきらめない』 ～Spirit（精神）・Mind（知性）・Body（身体）を育むヘルスケアの実践～

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<ol style="list-style-type: none">1. 生徒理解を深め、生徒一人ひとりに添った生徒支援を実現する。 (1) 専門家や外部との連携を積極的に行う。2. 確実な進路補償の仕組みを作る。 (1) 学び直しができる仕組みを整え、進路に向き合う力を育成する。3. 開かれた学校づくりをし、生徒が活躍できる場を増やす。 (1) 生徒が主体的に関わるスクーリングや特別活動を実施する。またボランティアや生徒間交流の機会を提供する。4. 持続可能な学校とするための体制を確立させる。 (1) 社会の大きな変革の中で、新しい学校の形を探究し、社会に貢献できる学校をめざす。
事業目標	<p>『誰もが学びをあきらめないためのヘルスケアの実践』に向けた取組み目標</p> <ul style="list-style-type: none">■ こころのケア（Spiritの涵養）：自分の在り方を見つめ、他者と関わる力をつける体験学習を中心としたスクーリングを実施し、人格形成や自己効力感の向上をめざします。■ 学びのケア（Mindの涵養）：レポートサポートをより充実させ、YMCA 学院高校のオリジナルメディア利用学習課題を新たに作成し、遠隔授業を実施、通学が困難な生徒を含めた、誰もが学びを継続できる取組みを行います。■ からだのケア（Bodyの涵養）：定期的な健康講座（オンライン実習含む）の実施や歩数や筋力測定によって、生徒が自分の体調を客観的に把握し、基礎体力をつけます。また生徒が相互に支えあえる関係を構築することによって、実習が継続できるような仕組みをつくります。 <p>上記を踏まえて、具体的な取組み（「わいわいカフェ」・親と子のサポートグループや、医療（関西医科大学）や福祉（公益財団法人大阪 YMCA）との連携によるチームでのヘルスケア実践、進路支援等）を実践。その結果学びをあきらめず、未来に希望を抱き、人と人とのつながりを大切する「ひとづくり」を行います。</p> <p>さらに、生徒自身がボランティア活動を通して「自己効力感」を感じられるようになることをめざします。</p> <p>また人材育成のプロセスや成果について HP での公表や学会発表を通じて社会への還元を果たします。</p>
整備した 設備・物品	パソコン、プロジェクター、プロジェクター天吊金具、ウレタンマット、折り畳み長机（低床）、液晶ディスプレイ、ビデオカメラ、三脚、ウェアラブルデバイス（スマートウォッチ）、統計ソフト SPSS
取組みの 主担・実施者	主担：生徒支援部会（教頭、主任、カウンセラー（臨床心理士）・ 特別支援教育コーディネーター、養護教諭、教員、アドバイザー） 取組みの実施者：全教員

	<p>連携者：公益財団法人大阪 YMCA・関西医科大学小児科学講座・大阪総合教育支援研究所</p>
<p>本年度の 取組内容</p>	<p>【前年度から継続している取組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員(担任) 生徒支援会議 (4月～8月・10月～2月) ・ 関西医科大学医師によるヘルスケアに関する講演会の実施/サポートグループ的グループワークの実施(健康に不安を持つ生徒・保護者のつどい&学習会/わくわく健康講座顔合わせ) (5月・10月) ・ 自然の中のハイキングとワークを組み込んだ「五感で自然を感じよう」スクーリングの実施 (5月) ・ 連携機関(関西医科大学小児科学講座・公益財団法人大阪 YMCA)とケース会議の実施(定期的に実施) ・ 月平均の歩数測定 (毎月) ・ ウェアラブルデバイス(スマートウォッチ)使用(前期・後期)。健康講座によるストレス減少を確認し動機づけとした。 ・ 健康講座(オンライン実習)(前期:15回 後期:15回 実施) ・ 下肢筋力測定 (5月・2月) ・ 歩数分析結果の取りまとめ、次年度への課題抽出、次年度のヘルスケア計画策定 (3月) ・ 生徒の自己効力感のアンケート調査・データ分析 (5月・3月) ・ 健康講座(オンライン実習)においてオンラインヘルスケア受講者に学校内会場での参加も積極的に促し実施 ・ 健康に不安がある生徒のキャンプ@六甲山 YMCA (1泊2日 8月) * 卒業生 OD 生徒3名がジュニアリーダーとしてキャンプをサポートした ・ 生徒・保護者の満足度アンケート実施 (3月) ・ オリジナルメディア学習課題の作成・実施 (12月～2月) ・ コミュニケーション系講座を中心とする体験学習(総合科目)実施 (7月) ・ ヘルスケアが必要な生徒を中心に据えた体育実技の実施 (1月) ・ 希望者にスタディサブリを導入し、学習促進を促す個別面談を実施 ・ 研修を受けた担任による傾聴を通じた面談の実施(希望者、毎月) <p><通年></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の関係・居場所づくり「わいわいカフェ」の開催回数を増加 毎週月曜日・金曜日開催(スクーリング期間内) ・ 希望者にスタディサブリを導入し、教員と生徒間の指導を実施 ・ カウンセリング、教育相談 ・ 大阪総合教育支援研究所との連携した教員養成を実施 ・ 臨床心理士による教員向け傾聴トレーニングを実施 ・ HPに実践事例発信 ・ 15時開始の学びなおし講座・レポートサポートを実施 ・ 進学に向けた自学自習の場「進学サポート」(英・国) ※夕方開催 ・ YMCA事業所と連携したボランティア活動を通じた対人支援の実施(希望者) ・ 生徒の体力・自己効力感に関する研究結果発表(HP/学会)
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 単位修得率 91%以上 ② 中途退学率 4.1%以下。(Mind) ③ 下肢筋力測定(CS-30)について各個人の初回測定の120%増。 ④ 歩数測定で、初回測定の120%増。(Body) ⑤ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均7人以上。 ⑥ 保護者・生徒アンケート(4段階評価)で肯定的評価を85%以上。関西医科大学に自己効力感調査の分析・考察による検証(前年度比)。(Spirit) ⑦ 宿泊研修に15人以上参加する。(Spirit、Mind、Body)
<p>自己評価</p>	<ol style="list-style-type: none"> ① 単位修得率(単位修得人数÷単位登録者数) 目標値:91%以上 →90%(令和5年度 前期90%、後期90%)……………(△)

	<p>* 在籍者数は昨年度同時期よりも 75 名増加しているが数値は改善した (88%→90%)</p> <p>② 中途退学率 (年度退学転出者 ÷ (年度末在籍者+年度退学転出者+前期卒業者)) 目標値 : 4.1%以下 →2.5% (一昨年度 4.2%/昨年度 3.9%) …………… (◎)</p> <p>③ 下肢筋力測定 (CS-30) の目標を 28 回に設定。各個人の初回測定の 120%増。 →173% (AV21 回) * 測定慣れによる増加分も考えられる。…………… (◎)</p> <p>④ 歩数測定で 8000 歩を目標値とし、初回測定の 120%増。 →142%増 (AV4, 628 歩) …………… (◎)</p> <p>⑤ 「わいわいカフェ」の利用者数、各回平均 8.0 人 …………… (◎)</p> <p>⑥ 生徒・保護者の満足度アンケート実施 85%以上→80% …………… (△)</p> <p>⑦ 宿泊研修に 15 人以上参加する。 →参加者は 21 名+昨年度参加の卒業生 0D3 名+ボランティア大学生及び看護師も参加。 健康不安を持つ生徒の自発的活動と相互理解の深まりを感じる場であった。… (◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> オリジナルメディア学習課題の作成・実施 (12 月～2 月) コミュニケーション系講座を中心とする体験学習 (総合科目) 実施 (7 月、1 月) 自己効力感調査による分析・考察による検証、主観的評価「セルフ・エフィカシー尺度」統計解析は SPSS® Ver. 29 を用いて Wilcoxon 順位和検定を実施。 → (令和 4 年 3 月・令和 5 年 9 月/18ヶ月検証) 比較では p=0.063 とわずかに有意差を得るには至らなかった。(有意差は p<0.05) 複数年での取り組みを行えば自己効力感の向上が見られると考えられる。
<p>事業のまとめ</p>	<p>YMCA では Spirit、Mind、Body、精神、知性、身体 の 3 つのバランスが取れた人の育成に從來取り組んできたが、本校では body、身体づくりの点で弱い面があり、学校経営推進費を活用し、この 3 年間ここへの取り組みを行った。そこで大きな成果を得たことから、次年度も同様に活動をしていく予定である。関西医科大学とは次年度も連携契約を結ぶことも確認しており、柳本医師のセミナーの日程も決定している。最終年度、オンライン HR の後半に健康講座を行うことにより、参加率が高くなったことから、次年度もこの形をとることを検討中である。公益財団法人大阪 YMCA とは健康講座指導者派遣の交渉中である。万一、派遣が難しい場合は、校内の体育教員等が担うなどして、生徒たちの健康づくりを実施する予定である。</p> <p>健康に不安をもつ生徒のためのキャンプは、8 月末に行い、健康不安の生徒だけではなく、そのことを理解しようとする生徒たちにも募集を行い、多様性を認めるキャンプにしていく計画をしている。これらの取組は健康への意識変革をすることになるだけでなく友人との人間関係を構築することで、生徒自身が自信をもって自分の未来を考えることができる。将来的には健康寿命を延ばすことになる。本人の事象だけではなく、日本の医療費負担減にもつながることで、どこの学校でもこのような取組みが推進できる仕組みを国、府単位で考えられるきっかけとなることを、期待したい。</p>

3. 事業費報告

<p>今年度事業費総額</p>	<p>791,685</p>	<p>円</p>
-----------------	----------------	----------

積算内訳

* 決算科目 (節) を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

	科目 (節)	番号	内訳	単価	数量	金額
積算内訳	1 報償費	1	講演会 (生徒・保護者対象)	¥55,685	1	¥55,685
		2	メディア利用課題用動画作成 (20講座)	¥6,000	10	¥60,000
		3	健康講座講師料 (2名)	¥12,000	30	¥360,000
		4	ハイキング・宿泊実習指導費 (2名)	¥20,000	4	¥80,000
		5	アドバイザー料 (医師、月1回)	¥200,000	1	¥200,000
		6	わいわいカフェ (ボランティア交通費、年20回、2名)	¥900	40	¥36,000
					小計	¥791,685
			合計	¥791,685		